

2026年2月17日

地域を豊かにするための「脱炭素」
～小水力発電の可能性と地域再エネの実装～

地域主導の再エネ普及に向けて ～どこに着目し、何をするべきか

事業構想大学院大学 教授

重藤 さわ子
Sawako Shigeto

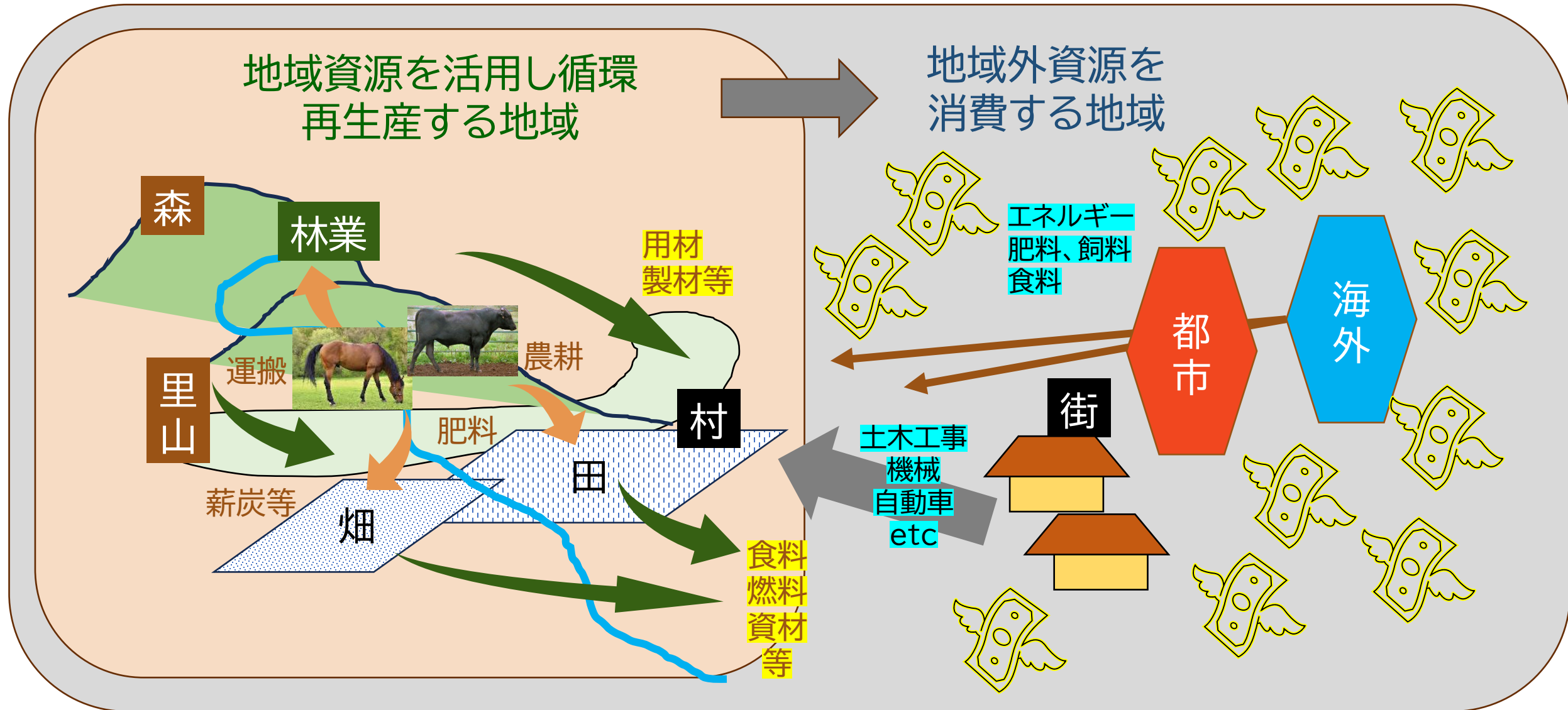


本日の着目ポイント

- ・ 地域の豊かさとはなにか
- ・ 地域はなぜ豊かにならなかったのか
- ・ 脱炭素・ネイチャーポジティブ時代の地域の「再エネ」の意義

地域内循環構造から資源調達の外部依存シフトによる地域衰退メカニズム

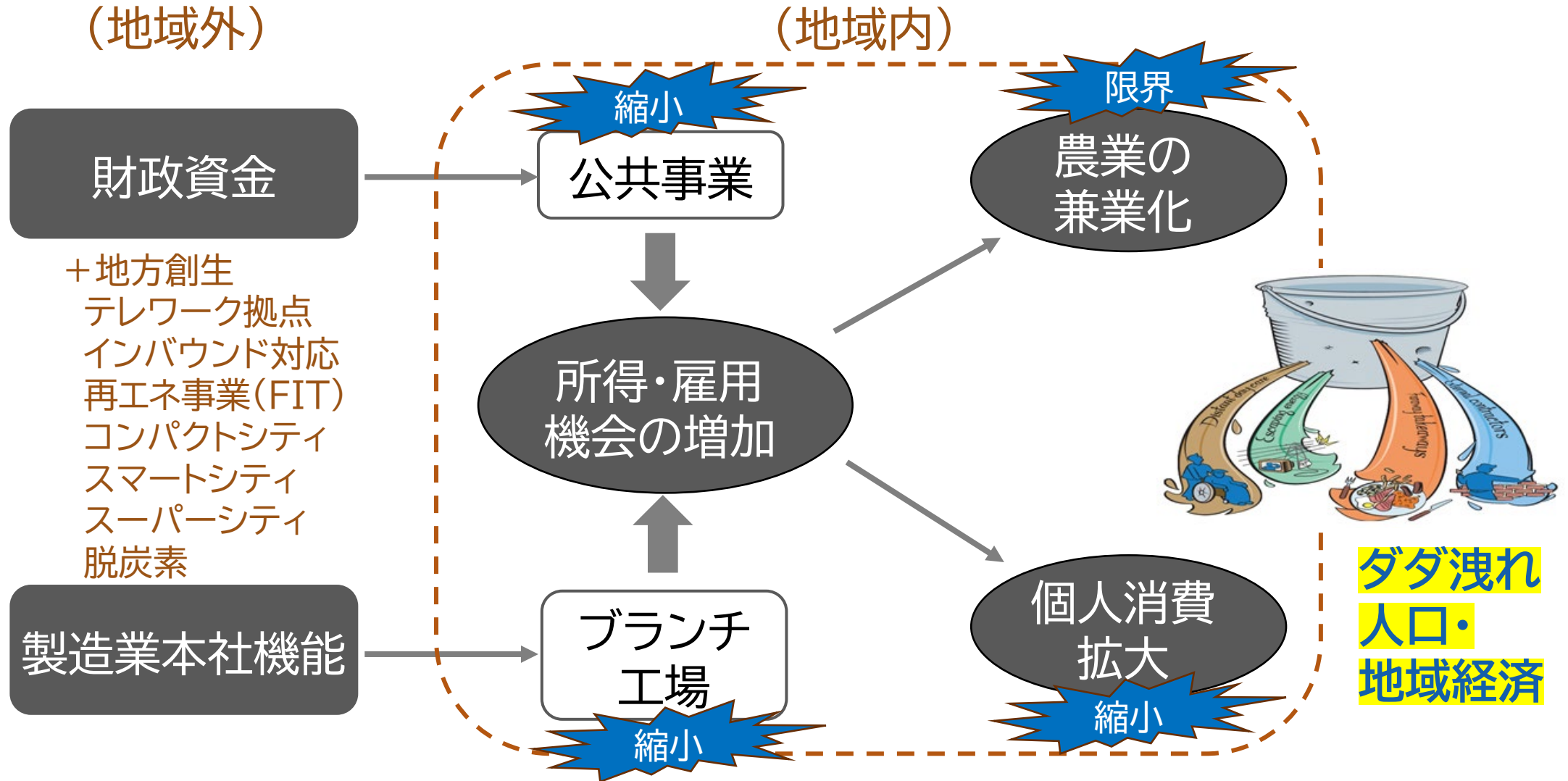
地域が稼ぐ力(販売) < 地域の外への支払い(消費)



この構造が続く限り地域は豊かにならない



誘致・公共事業頼みの地域活性化策は限界

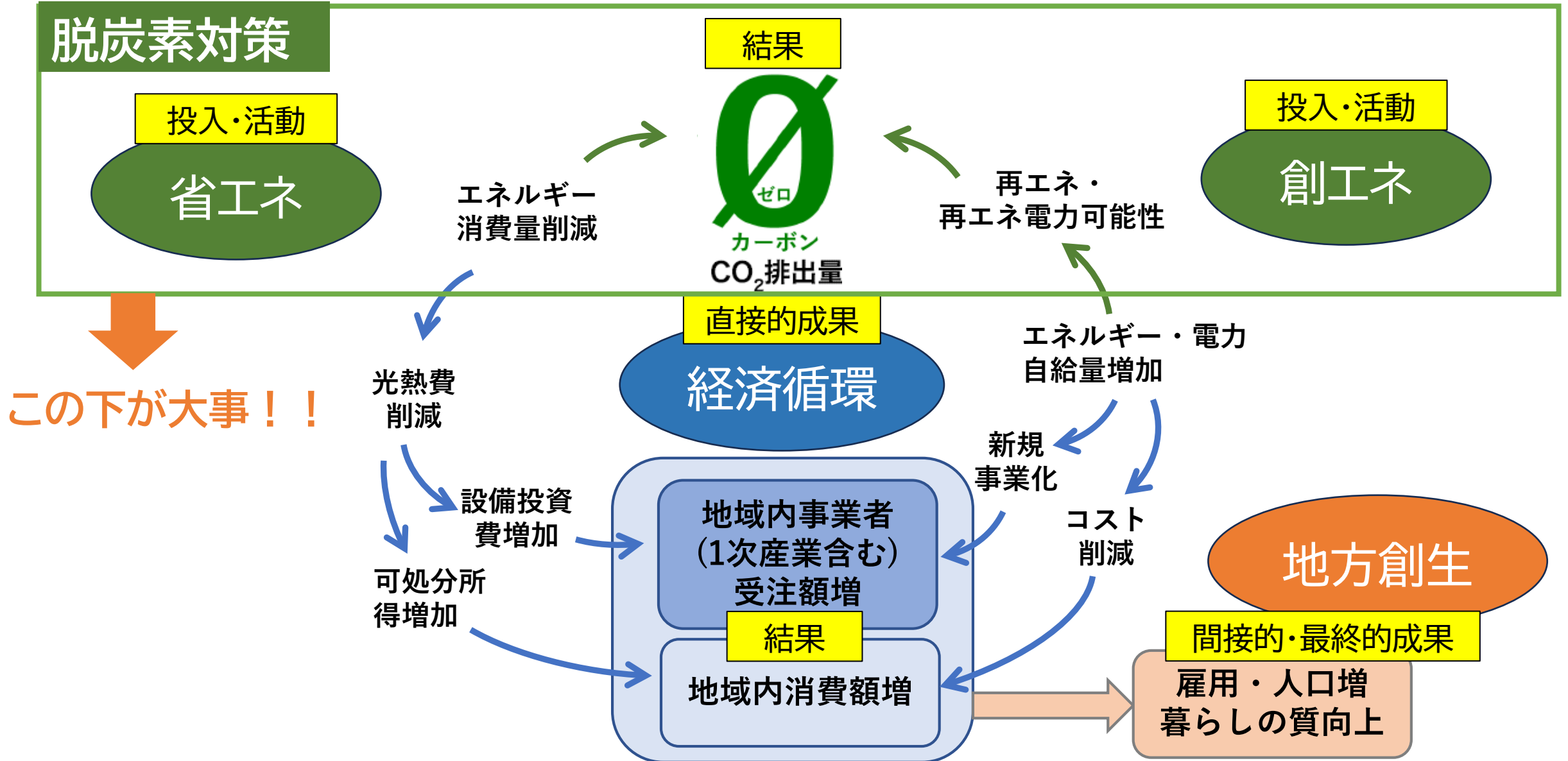


注) 榎平龍宏(2013)「第2章 地域再生の理論と農山漁村」『農山村再生に挑む－理論から実践まで』岩波書店に重藤加筆

地域の追い風のはずだった 地域資源活用の循環型社会・脱炭素社会

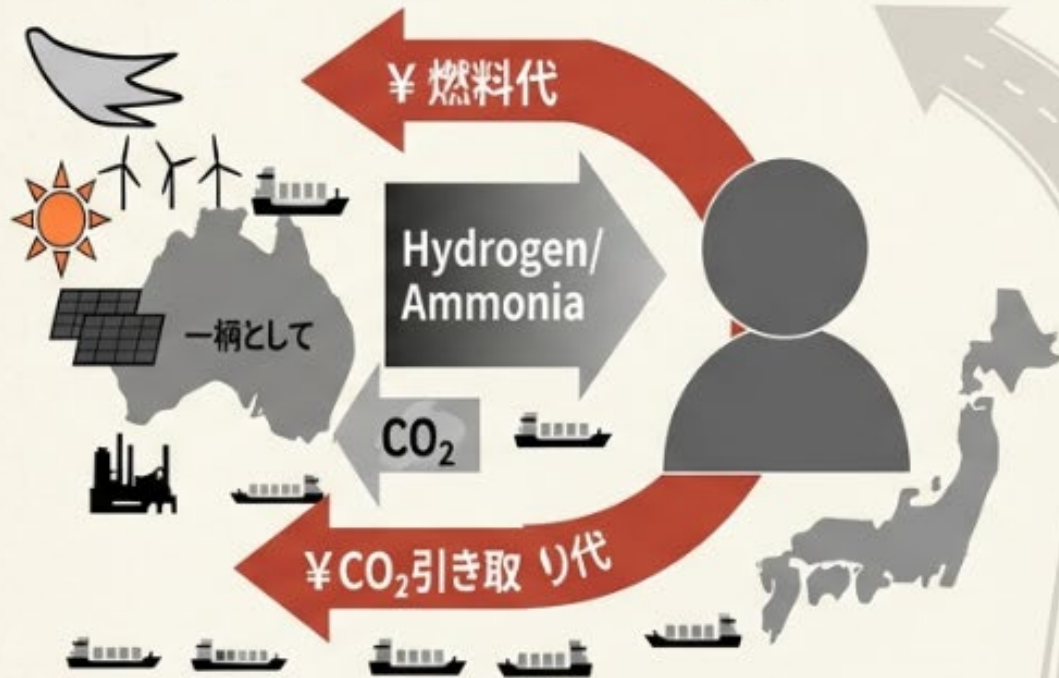
- 「循環型社会形成推進基本法」(2000年)成立
を受け、地域の未利用資源の活用への期待が高まった
→資源リサイクル制度は定着
ただしコスト高の壁を乗り越えられず
新たな社会・経済システム構築につながらず
地域の活性化につながらず
- 東日本大震災を機に導入された再エネの大幅導入は、日本の新産業
振興・地域創生が根拠法案に盛り込まれる
→地域は豊かにならず、地域の脱炭素にもつながらず、むしろ昨今のメ
ガソーラー反対運動に見られるように、地域の景観を激変させた
※エネルギー政策を民間主導に(電源立地交付金なし)

なぜ地域の活性化につながらないのか：ロジックの欠如



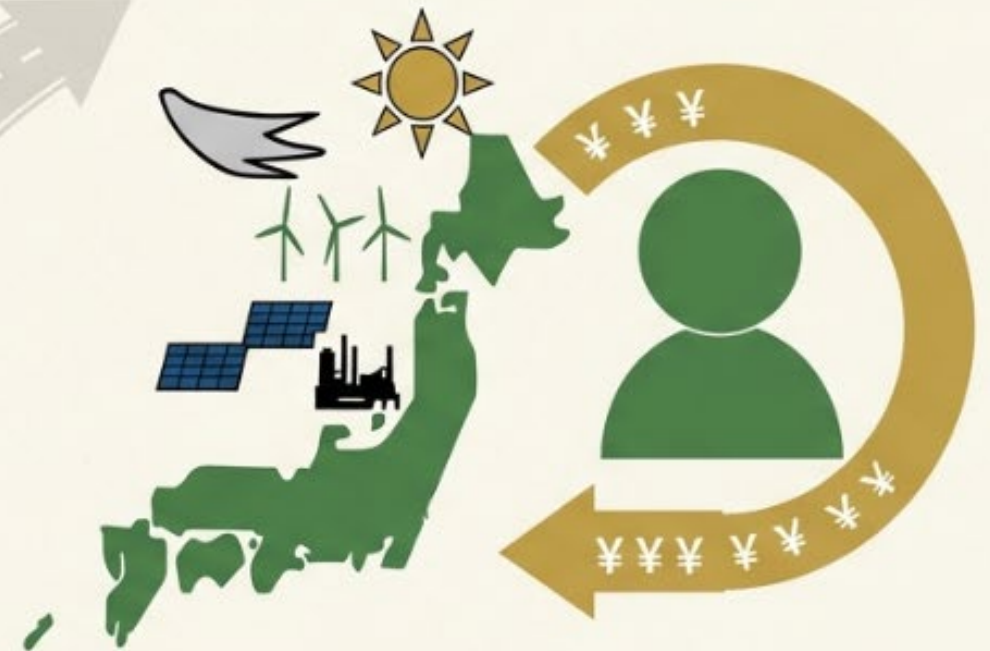
「地域」の視点のないエネルギー政策に留意！

A：日本が疲弊する脱炭素 (National Strategy)



- ・「CO₂を出さない」ことが目的
- ・燃料輸入 + CO₂クレジット購入
- ・富の海外流出が続く

B：地域が元気になる脱炭素 (Regional Strategy)



- ・「エネルギーを減らす・創る」が目的
- ・省エネ + 地域再エネの自給
- ・燃料代が地域内に留まる

消費者・地域としてできること

①再生可能エネルギーを重視する電力会社を選択する

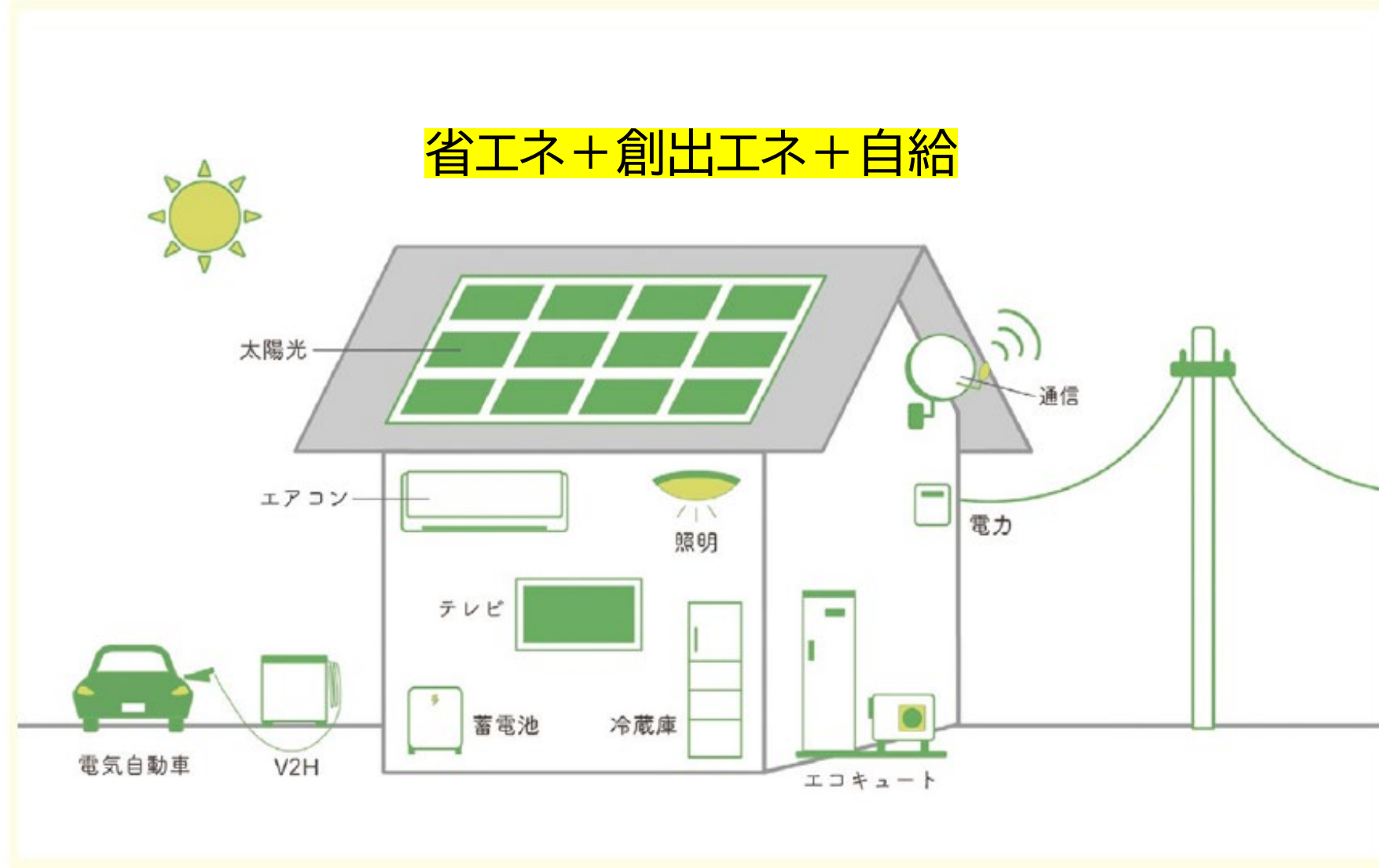
※日本の電力供給において火力発電への依存度が約7割と依然高く、エネルギーシフトが不十分のため、燃料高騰の影響は回避できない。

②自ら再エネを設置し、自家消費率を高める

③地域の再エネ事業を支援

④地域の再エネを地域で消費できる仕組みづくり

お得な利用のイメージを考える



出典)辻基樹「人口減少時代のGX:脱炭素ライフスタイルのモデル事例 住宅太陽光活用に係る企業連携」
月刊事業構想2024年9月号

まとめ① 「選ぶ」と「作る(創る)」で豊かな地域へ

選ぶ (Choose)



再エネを重視し、地域に還元する電力会社を選ぶ。

作る (Produce)



太陽光 + 蓄電池で、自家消費率を高める。

回す (Circulate)



地域の再エネを地域で使う「地産地消」の仕組み（地域新電力など）を支援する。

まとめ②「豊かさ」の基準が変化しているなかで、 再エネを「宝」にするか「迷惑施設」にするかは地域次第

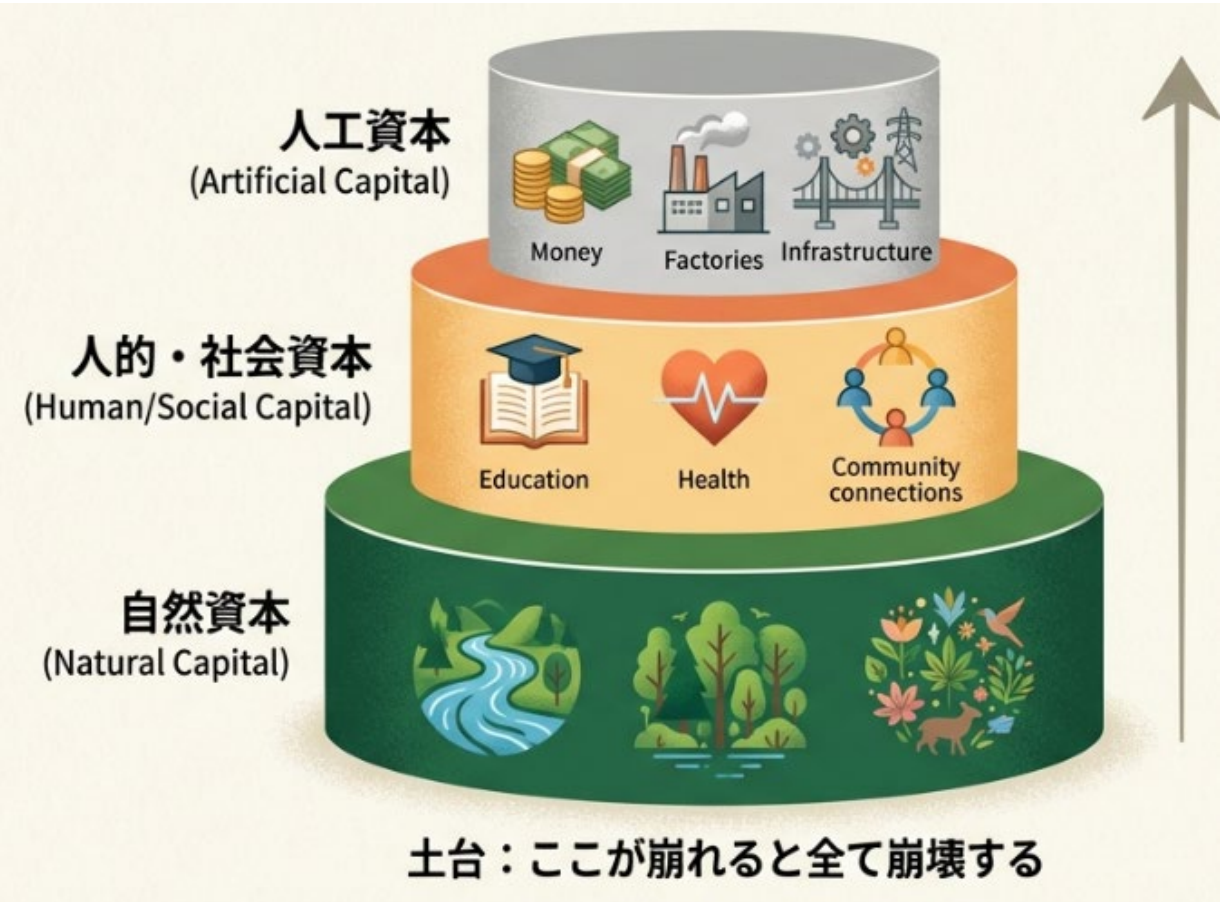
これまでの評価基準



- 工場誘致や公共事業による「稼ぐ力」を重視
- 外部資本への依存

• 人口資本あってこそ地域は豊かだ！

これからの評価基準



• 土台(自然資本)がしっかりしているからこそその
暮らし・経済



地域を豊かにするための「脱炭素」を！

GLOBAL NET グローバルネット

環境と社会の“いま”を知り、未来を動かす
—持続可能な未来を本気で考える人のための一冊—

＼特集／

脱炭素で地域を豊かにする

2026

2

脱炭素で地域を豊かに
～地域主導の再生可能エネルギーの普及に向けて
重藤 さわ子

いま求められる
地域主導の脱炭素を推進するための仕組み
上園 昌武

脱炭素と地域課題の同時解決を目指して
榎原 友樹

423号

地球・人間環境フォーラム

＜わしくは＞＞＞＞＞



オンライン販売サイト：
<https://gefglobalnet.base.shop>